

西川潤教授著作目録

[単著]

1. 『アフリカの非植民地化』(叢書現代のアジア・アフリカ. 9)三省堂, 1971.10
2. 『アフリカの独立』(ドキュメント現代史. 12)平凡社, 1973.4
3. 『飢えの構造』(ダイヤモンド現代選書)ダイヤモンド社, 1974.2
4. 『第三世界と日本』潮出版社, 1974.4
5. 『資源ナショナリズム: 先進国理論の崩壊』(ダイヤモンド現代選書)ダイヤモンド社, 1974.10
6. 『自立する世界・甦る文化: 西川潤学習対談集』(ダイヤモンド現代選書)ダイヤモンド社, 1975.9
7. 『経済発展の理論』日本評論社, 1976.4
8. 『多国籍企業と第三世界』毎日新聞社, 1976.6
9. 『第三世界の歩み』(中公新書)中央公論社, 1976.11
10. 『第三世界の構造と動態』(中公叢書)中央公論社, 1977.4
11. 『不確定時代の選択: 80年代の秩序を求めて』ダイヤモンド社, 1978.5
12. 『経済発展の理論』第2版, 日本評論社, 1978.6
13. 『南北問題』(NHK ブックス: 340)日本放送出版協会, 1979.4
14. 『国際関係を見る眼』第一巻「80年代・予兆と底流」, 第二巻「崩壊する〈支配と従属〉」, 第三巻「平和と〈もうひとつの発展〉」, ダイヤモンド社, 1979-80
15. 『貧困』(岩波ブックレット: No 18)岩波書店, 1983.6
16. 『人口』(岩波ブックレット: No 22)岩波書店, 1983.9
17. 『食糧』(岩波ブックレット: No 27)岩波書店 1983.12
18. 『世界経済をみる目』(NHK 市民大学), 日本放送出版協会, 1984.10
19. 『飢えの構造』増補改訂版, ダイヤモンド社, 1984.12
20. 『第三世界と平和』(平和研究叢書: 4), 早稲田大学出版部, 1987.5
21. 『世界経済入門』(岩波新書), 岩波書店, 1988.2
22. 『世界経済入門』第2版(岩波新書), 岩波書店, 1991.6
23. 『貧困』新版(岩波ブックレット: No 347), 岩波書店, 1994.6
24. 『人口』新版(岩波ブックレット: No 348), 岩波書店, 1994.6
25. 『食料』新版(岩波ブックレット: No 349), 岩波書店, 1994.6
26. 『世界経済診断』(岩波ブックレット: No 512), 岩波書店, 2000.6
27. 『人間のための経済学—開発と貧困を考える』(国際開発・大来賞, 早稲田大学大隈記念褒賞), 岩波書店, 2000.11
28. 『世界経済入門』第3版(岩波新書), 岩波書店, 2004.6

29. 『人間の顔をしたグローバリゼーション』日本経済新聞社，2007年（出版予定）

[英文単著]

1. *ASEAN and the United Nations System*, The United Nations (Sales No. E. 83. XV. RS/9), 1983
2. *Development and Happiness—Learning the “Spiritual Wealth” from Asia*, COE-CAS, Waseda University, WP NO. 9, 2004. 4
3. *Human Beings and Development—Toward a World where Every Life can Live Together, The Way of Endogenous Development—*, COE-CAS, Waseda University, WP NO. 21, 2005. 4

[仏文単著]

1. *Le modèle de développement au Japon. Examen d’une interaction économique et sociale*, La Fondation François Perroux, 1995, 6

[中文単著]

1. 『世界経済入門』呉樹文訳，台湾商務印書館，1989年

[共著]

1. 『現代の平和を考える』創価学会青年平和会議編，潮出版社，1981年
2. 『高校現代社会』宮本憲一，吉田光らと，実教出版，1982年，4訂版，1991年
3. 西川潤，大野拓司『飢餓と構造暴力』（東大生協ブックレット：2），東京大学消費生活協同組合，1985.12
4. 『国連を改造する』佐藤栄作記念国連大学協賛財団編，世界の動き社，1986.8
5. 『新国際秩序と平和』日本平和学会編集委員会（講座平和学：4），早稲田大学出版部，1986.11
6. 『内発的発展』川田侃，鶴見和子編，東大出版会，1989
7. 『イスラムの都市性』文部省科研費重点領域研究「イスラムの都市性」事務局編，第三書館 1991.7
8. 『環境保全型農業と世界の経済』農林中金総合研究所，農文協，1991.9
9. 『国際化と食糧安全保障』農業情報研究所編，家の光協会，1991.11
10. 『文明の転換と東アジア』秀村欣二監修，藤原書店，1992.9
11. 『ガット・自由貿易への疑問』伊庭みか子・吉沢広祐編，1993.10
12. 『地球規模で考える健康と環境』土井暁雄編，恒星社厚生閣，1993.11
13. 『現代の経済と消費生活—協同組合の視角から』白井厚編，コープ出版，1994年
14. 『国際協力と憲法』朝日新聞社論説委員会編，朝日新聞社，1995.6
15. 西川潤，村井吉敬『越境民主主義時代の開発と人権』明石書店，1995.7

16. 西川潤文, 小林正典写真『マザー・テレサ: インドから世界へ』大月書店, 1995.7
17. 『沖縄へのメッセージ』琉球新報社, 1997.2
18. 『冷戦後の日本と沖縄』佐久間政一・鎌田定夫編, 谷沢書房, 1997.6
19. 『経済学は誰のためにあるのか』内橋克人編, 岩波書店, 1997.7
20. 『アジアの社会発展と人権』アジア太平洋人権情報センター編, 現代人文社, 1998.
21. 『食糧と地球環境』JA グループ環境推進協議会編, 家の光協会, 1999.4
22. 『やさしい経済学』日本経済新聞社編, 日経ビジネス人文庫, 2001.11
23. 『20人の男たちと語る性と政治』松井やより編, お茶の水書房, 2002.7
24. 高柳彰夫, ロニー・アレキサンダー編『私たちの平和をつくる』(グローバル時代の平和学: 第4巻), 法律文化社, 2004.7

[英文共著]

1. *Growth and Resources Problems Related to Japan*, Proceedings of Session VI of the 5th Congress of the International Economic Association held in Tokyo, Japan, Asahi Evening News, 1978
2. *Women in a Changing World*, Asahi Shinbun/Asahi International Symposium, 1986
3. *Regional Economic Strategies in East Asia. A Comparative Perspective*, Ed. By F. Giploux, Maison Franco-Japonaise, Tokyo, 1994

[西文共著]

1. *Les Retos de la Globalización. Ensayos en homenaje a Theotonio Dos Santos*, ed. por F. L. Segrera, UNESCO, Caracas, 1998

[編著]

1. 『これが第三世界だ: 国際新勢力が目指すもの』学陽書房, 1976.5
2. 川田侃, 西川潤『太平洋地域協力の展望』早稲田大学出版部, 1981.5
3. 『沖縄—自立と平和の展望』日本平和学会「平和研究叢書2」, 早稲田大学出版部, 1980.7
4. 緒田原涓一, 西川潤『テキストブック世界経済』(有斐閣ブックス)有斐閣, 1982.11
5. 西川潤, 森田桐郎『いま世界政治経済が面白い』(有斐閣新書), 有斐閣, 1990.5
6. 『援助と自立』日本ネグロス・キャンペーン委員会, 同文館出版, 1991.4
7. 斎藤優, 西川潤, 中内恒夫『東アジアの開発と協力』文真堂, 1994.9
8. 『開放中国国際化のゆくえ』(環日本海叢書: 別巻), 有信堂高文社, 1995.8
9. 『エコノミストを知る事典』日本実業出版社, 1996.9
10. 『社会開発』(有斐閣選書)有斐閣, 1997.2
11. 『アジアの内発的発展』藤原書店, 2001.4

12. 西川潤, 野田真里『仏教・開発・NGO』新評論, 2001.11
13. 西川潤, 佐藤幸男『NPO/NGOと国際協力』(シリーズNPO8), ミネルヴァ書房, 2002.7
14. 西川潤・多賀秀敏編『21世紀世界の平和とは?』早稲田大学オープン教育センター, 2005.4
15. 『グローバル化時代の外国人・少数者の人権』(世界人権問題叢書: 56), 明石書店, 2005.7
16. 西川潤, 高橋基樹, 山下彰一『国際開発とグローバリゼーション』(シリーズ国際開発: 第5巻), 日本評論社, 2006.6
17. 西川潤, 潘季, 蔡艷芝『中国西部開発と持続可能な発展』同文館, 2006.10
18. 『社会科学を再構築する—地域平和と内発的発展』明石書店, 2007.1
19. 西川潤, 蕭新煌『東アジアの市民社会と民主化』明石書店, 2007.2
20. 西川潤, 蕭新煌『東アジアの社会運動と民主化』明石書店, 2007年(出版予定)
21. 『アジアの市民社会』明石書店, 2007年(出版予定)
22. 『連帯経済』明石書店, 2007年(出版予定)
23. 西川潤, 平野健一郎編『人口移動と社会変容』岩波講座「東アジア共同体の構築」第3巻, 岩波書店, 2007年(出版予定)

[仏文編著]

1. E. J. Dourille-Feer et J. Nishikawa (éd.), *La finance et la monnaie à l'âge de la mondialisation*, L'Harmattan, 2004

[訳著]

1. アラン・トゥレーヌ『現代の社会闘争: 五月革命の社会学的展望』寿里茂と共訳, 日本評論社, 1970
2. ルイ・アルマン, ミシェル・ドランクール『ヨーロッパの賭け: 地球化時代の構想』三省堂, 1970.11
3. アラン・トゥレーヌ『脱工業化の社会』寿里茂と共訳, 河出書房新社, 1970.12
4. エルネスト・マンデル『現代マルクス経済学』1~4巻, 岡田純一, 坂本慶一と共訳, 東洋経済新報社, 1972~74
5. A. フェール, J. P. スポール『80年代不均衡の世界』林勝一と共訳, 河出書房新社, 1975.1
6. アンドレ・G. フランク『世界資本主義とラテンアメリカ』岩波書店, 1978.8
7. サミール・アミン『不均等発展: 周辺資本主義の社会構成体に関する試論』東洋経済新報社, 1983.12
8. J. ロビンソン『開発と低開発: ポスト・ケインズ派の視角』(岩波現代選書: 115), 岩波書店, 1986.11
9. スーザン・ストレンジ『国際政治経済学入門: 国家と市場』佐藤元彦と共訳, 東洋経済新報社, 1994.12

10. デビット・コーテン『グローバル経済という怪物：人間不在の世界から市民社会の復権へ』監訳，桜井文訳，シュプリンガー・フェアラーク東京，1997.4
11. 『経済開発とエイズ』喜多悦子と共訳，世界銀行，東洋経済新報社，1999.12
12. デビット・コーテン『ポスト大企業の世界』シュプリンガー・フェアラーク東京，2000.6
13. 『世界開発報告—貧困との闘い2000/2001』監訳，世界銀行，シュプリンガー・フェアラーク東京，2002.4
14. 『世界開発報告—市場制度の構築 2002/2003』監訳，世界銀行，シュプリンガー・フェアラーク東京，2003.7

論文目録

和文論文

1. 「マルクス主義は少年期にある」早稲田大学政経学部学友会『早稲田政経』創刊号，1958.3
2. 「カルヴァン経済思想の成立」（早稲田大学大学院経済学研究科修士論文），1961.1
3. 「ドゴールと人民の距離—ゆらぐ第五共和制の背景」『エコノミスト』46(23)，毎日新聞社，1968.6.4
4. 「フランスは南北のかけ橋になれるか—民族重視のドゴール主義」『朝日ジャーナル』10(24)，朝日新聞社，1968.6.15
5. 「スチューデント・パワー—1—フランス—上—新しい奴隷づくりに抗して」『朝日ジャーナル』10(26)，1968.6.23
6. 「技術革新時代の市民国家像 [フランス]」『世界』273号，岩波書店，1968.8
7. 「『参加の社会』は可能か—上—ドゴール戦略と大学の改革」『エコノミスト』46(33)，1968.8.13
8. 「『参加の社会』は可能か—下—民衆の要求には応えられぬ企業の自主管理，地方自治体改革」『エコノミスト』46(34)，1968.8.20
9. 「なぜノンを突きつけられたか—魅力薄れた地方制度改革案」『エコノミスト』47(20)，1969.5.13
10. 「ドゴール以後のフランス」『中央公論』84(7)，中央公論新社，1969.7
11. 「西欧的近代とは何か」『別冊潮』14号，潮出版社，1969.8
12. 「17世紀フランスの対外膨張思想—デュ・ノワイエ・ド・サンマルタンの王立会社思想 [付著作目録（主要公刊小冊子類）]」『早稲田政治経済学雑誌』218号，早稲田大学政治経済学会，1968.8
13. 「第三世界は告発する」『中央公論』84(9)，1969.9
14. 「全共闘運動のゆくえ」『潮』119号，潮出版社，1969.11
15. 「ピアフラ戦争が予言するもの」『中央公論』85(6)，1970.6

16. 「経済支配から友好援助への選択」『別冊潮』18号, 1970.7
17. 「ポリティーク派に見る市民社会の要求—フランス絶対主義成立期における政策主体」『早稲田政治経済学雑誌』224・225号, 1970.10
18. 「奇妙なコスモポリックな都市で—『Z』」『映画評論』27(11), 新映画, 1970.11
19. 「現代の権力メカニズムの告発—映画「Z」の監督コスタ・ガブラスとの対話から」『潮』134号, 1970.12
20. 「エジプト—試練に立つ“非資本主義”の道」『世界』303号, 1971.2
21. 「解説・『先進国』と『後進国』」『日本の将来』1971(1), 潮出版社, 1971.5
22. 「キューバ—一つの経済発展—第三世界の未来を先取り—上—12年間の経済変化」『エコノミスト』49(27), 1971.7.6
23. 「キューバ—一つの経済発展—第三世界の未来を先取り—中—経済発展の動因—1—物質的刺激と精神的刺激」『エコノミスト』49(28), 1971.7.13
24. 「キューバ—一つの経済発展—第三世界の未来を先取り—下—経済発展の動因—2—大衆の自発性と組織」『エコノミスト』49(29), 1971.7.20
25. 「プロテスタント派における歴史認識の転換」『早稲田政治経済学雑誌』228号, 1971.10
26. 「現実性帯びる“円経済圏”構想」『朝日ジャーナル』13(39), 1971.10.15
27. 「国際通貨危機と低開発国(特集・通貨危機と革新の立場)」『現代の理論』8(11), 現代の理論社, 1971.11
28. 「自主管理の思想」『別冊経済評論』7号, 日本評論社, 1971.11
29. 「ヤン・ティンベルヘン—人と思想」薬師寺明久と, 『経済セミナー』196号, 日本評論社, 1971.12
30. 「アジア分断へ進む日米資本(特集・私たちはアジアを知らない)」『朝日ジャーナル』14(2), 1972.1.14
31. 「中国と中小国—国連参加後の展望」『公明』112号, 1972.2
32. 「先鋭化する南北対立」『別冊経済評論』8号, 1972.2
33. 「70年代アジアと日本の選択」『日本の将来』1972年(1), 1972.2
34. 「第三世界の構造と動態—新しい世界秩序を求めて」『世界』317号, 1972.4
35. 「新次元を画する南北問題—『挫折の10年』からの転換へ」『エコノミスト』50(16), 1972.5
36. 「UNCTAD—南北問題の新局面」『経済セミナー』204号, 1972.7
37. 「『新しい国際分業』論の虚構—貫徹する産業・輸出優先主義」『エコノミスト』50(34), 1972.8.10
38. 「転換期の経済外交—支配の論理から平等互惠の論理へ」『公明』119号, 公明党機関紙局, 1972.9
39. 「多国籍企業と低開発国」『経済評論』22(1), 1973.1
40. 「日中復交後の東南アジア」『潮』164号, 1973.2

41. 「国際商品高騰のメカニズム—もろい低開発国の経済構造」『エコノミスト』51(16), 1973. 4. 22
42. 「東南アジアにおける経済進出と問題点—タイの『日貨ボイコット運動』の分析をつうじて」『国際問題』158号, 日本国際問題研究所, 1973. 5
43. 「搾取強化に走る多国籍企業—連帯呼びかけた東南ア労組大会」『エコノミスト』51(19), 1973. 5. 8
44. 「資源ナショナリズムの展開」『公明』129号, 1973. 6
45. 「第三世界と多国籍企業—チリの世界労働集会にみる」『朝日ジャーナル』15(28), 1973. 7. 20
46. 「『エネルギー危機』の構造」『世界』333号, 1973. 8
47. 「緑の革命の成果と限界」『経済評論』22(10), 1973. 9
48. 「飢えの構造—政治経済学的考察」『中央公論』88(9), 1973. 9
49. 「チリ社会主義の3年間」『朝日ジャーナル』15(38), 1973. 9. 28
50. 「チリの反革命と第三世界—アジェンデ政権崩壊の教訓」『エコノミスト』51(44), 1973. 10. 23
51. 「チリ人民連合政権の崩壊」『公明』135号, 1973. 11
52. 「アジェンデ政権はなぜ崩壊したか—チリ内部の四つの資料による解明」『中央公論』88(11), 1973. 11
53. 「燃える中東と第三世界」『潮』174号, 1973. 12
54. 「南北問題と国際緊張—『近代化論』に代わる接近を」『世界』340号, 1974. 3
55. 「経済発展論—学史的考察 1-12」『経済セミナー』229~242号, 1974. 4-1975. 3
56. 「東南アジア経済論—自立への展望とその障害」『世界』343号, 1974. 6
57. 「資源戦略の新段階—前篇—」『中央公論』89(6), 1974. 6
58. 「第四世界の出現（資源戦略の新段階—後—）」『中央公論』89(7), 1974. 7
59. 「飢えと人類の未来（展望）」『展望』190号, 筑摩書房, 1974. 10
60. 「中国の印象—三つの主題（最近の中国）」『公明』149号, 1974. 10
61. 「『批林批孔』の中国を旅して」『潮』184・185号, 1974. 10・11
62. 「中国は第三世界のモデルとなるか」『中央公論』89(12), 1974. 12
63. 「平和研究と南北問題—経済学からの視角（平和研究への一視点〔焦点〕）」『国際問題』177号, 1974. 12
64. 「中国モデルと第3世界」『中国研究月報』322号, 社団法人中国研究所, 1974. 12. 25
65. 「食糧危機と第3世界—問われる日本の食糧政策」『公明』153号, 1975. 2
66. 「資源ナショナリズムと日本の対応—資源獲得政策では世界経済の変化に対応できない」『世界経済評論』19(5), 世界経済研究協会, 1975. 5
67. 「第三世界の経済自立思想—サミール・アミン『不均等発展』（思想と潮流）」『朝日ジャーナル』17(22), 1975. 5. 23
68. 「新国際秩序の構築と日本の選択—国民の生活を守る戦略とは何か（きびしい日本の経済セキュリティ〈特集〉）」『エコノミスト』53(37), 1975. 8. 19

69. 「開発途上国における技術選択—技術移転と自力更生」『経済評論』24(9), 1975. 9
70. 「多国籍企業首脳会見記（『大転換』という視点から〈特集〉）」『中央公論』90(9), 1975. 9
71. 「資本主義の危機への回答—シュレーヌ会議に出席して」『月刊社会党』225号, 日本社会党中央本部機関紙局, 1975. 9
72. 「資源ナショナリズムと日本の対応（世界経済の混迷と再編成—その現状分析と政策的視角）」『国際経済』26号, 国際経済学会, 1975. 10
73. 「フランス社会主義の方向（転形期の欧州社会主義〈特集〉）」『世界』359号, 1975. 10
74. 「核開発と第3世界（完全核軍縮への新しい構想—第25回パグウォッシュ・シンポジウムの記録〈特集〉）」『世界』361号, 1975. 12
75. 「かけ声ばかりの三木南北外交—放棄された自主外交路線（どこをめざす三木内閣の経済政策〈特集〉）」『エコノミスト』53(55), 1975. 12. 16
76. 「F. ペルーの低開発経済論」『社会科学討究』21(2), 早稲田大学社会科学研究所, 1976. 1
77. 「主体思想で躍進する北朝鮮経済—中ソと異なる独自路線の展開（流動化する社会主義路線〈特集〉）」『朝日ジャーナル』18(2), 1976. 1. 16
78. 「朝鮮半島訪問記」上・下 『公明』166・167号, 1976. 1・2
79. 「北朝鮮の経済発展」1~4 『世界』363~367号, 1976. 2~6
80. 「今日の南北問題—その意義と展望（南北問題と日本の将来〈特集〉）」『公明』364号, 1976. 3
81. 「多国籍企業の行動と論理（〈特集〉建国200年アメリカの光と影）」『潮』205号, 1976. 7
82. 「多国籍企業規制の意味—小宮氏の批判に答える」『経済セミナー』259号, 1976. 8
83. 「日本経済における“資源制約”問題」『早稲田政治経済学雑誌』252号, 1977. 10
84. 「第三世界でぶつかる日米—避けられぬ新国際経済秩序への道（日米経済関係のすべて）」『エコノミスト』55(44), 1977. 10. 20
85. 「新国際経済秩序における援助協力の位置（援助協力の再検討〈焦点〉）」『国際問題』212号, 1977. 11
86. 「第三世界と付き合い方—日本の経済援助を点検すれば（どうする袋小路の日本経済〈特集〉）」『公明』189号, 1977. 11
87. 「直接投資と開発途上国—小宮氏の現代総研『提言』への批判をめぐって」『経済セミナー』275号, 1977. 12
88. 「チリ—四年目の顔—自由化と弾圧のはざままで」『世界』385号, 1977. 12
89. 「東南アジア諸国工業化の実態参考—“Free Trade Zones & Industrialization of Asia”, Special issue of AMPO, vol. 8, no. 4 & vol. 9, nos. 1-2, 1977 から（思想と潮流）」『朝日ジャーナル』19(50), 1977. 12. 9
90. 「海図なき時代への出発—新国際経済秩序の表と裏」『中央公論』93(1), 1978. 1
91. 「新国際秩序と我々の選択—世界不況下の第三世界をみる」『世界』389号, 1978. 4
92. 「平和研究の発展のために—会長に就任して」『平和研究』3号, 日本平和学会, 1978. 5

93. 「『四項目』見解に思う〔「公明新聞」52.3.17より転載〕」『公明』195号, 1978.5
94. 「第三世界と軍縮」『世界』391号, 1978.6
95. 「“もうひとつの発展”への挑戦—新国際秩序形成への胎動—’68~’78年と未来」『朝日ジャーナル』20(24), 1978.6.16
96. 「新しい情報秩序の可能性を求めて—もう一つのナショナリズムのせめぎあい」『潮』230号, 1978.7
97. 「発展途上国の動きと日本経済（シリーズ・日本経済の進路を問う—2—）」『農業協同組合』24(7), 全国農業協同組合中央会, 1978.7
98. 「多国籍企業と新国際秩序」『経済評論』27(9), 1978.9
99. 「“もう一つの発展”現実化への模索」『中央公論』93(9), 1978.9
100. 「日本対外膨張思想の成立—西原借款の経済思想」正田健一郎編『近代日本の東南アジア観』アジア経済研究所, 1978.11
101. 「国際関係を見る眼」1~12『公明』200号~213号, 1978.10~1979.11
102. 「社会党中期経済政策を検討する—参加・分権時代の国際社会と日本」『エコノミスト』57(8), 1979.2.27
103. 「総点検『東京サミット』—3—南北問題の新展開—先進国に重くのしかかる『新国際秩序』」『朝日ジャーナル』21(23), 1979.6.15
104. 「三〇〇万人の大学—21—沖縄大学—“非エリート大学”の心意気」『朝日ジャーナル』21(9), 1979.8.10
105. 「経済協力（経済・時事問答）」『経済セミナー』296号, 1979.9
106. 「もうひとつの発展の可能性—日本の場合」『早稲田政治経済学雑誌』216号, 1980.1
107. 「ポスト石油の中東世界—新国際秩序形成のために」『世界』413号, 1980.4
108. 「日本とタイ—もうひとつの関係」『早稲田政治経済学雑誌』262号, 1980.4
109. 「新国際秩序の一環としての新情報秩序」『新聞研究』347号, 日本新聞協会, 1980.6
110. 「八〇年代南北問題の展開と国際協力—先進国の新たな対応の方向を求めて」『世界経済評論』24(7), 1980.7
111. 「女性解放と平和の展望」『世界』418号, 1980.9
112. 「新国際経済秩序と内発的発展—自力更生の政治経済学」『平和研究』5号, 1980.9
113. 「自力更生の政治経済学—新国際経済秩序における国内資源動員問題について」『経済評論』29(10), 1980.10
114. 「国際経済秩序の転換と日本経済の進路」『協同組合経済研究月報』325号, 協同組合経営研究所, 1980.10
115. 「ナショナリズムへの挑戦—『世界主義』へ進展させる視点は何か（混迷の時代をどう超えるか）」『公明』227号, 1980.12
116. 「自力更生の政治経済学—新国際経済秩序における国内資源動員の問題について」『早稲田政治

- 経済学雑誌』265号, 1981.1
117. 「アジアの国とことば—近くて遠い国々—アジアを理解する三つの原則」『朝日ジャーナル』23(12), 1981.3.25
 118. 「21世紀の世界像と日本外交」『公明』231号, 1981.4
 119. 「日本の海外投資と発展途上国」『早稲田政治経済学雑誌』266・267号, 1981.7
 120. 「世界経済の将来像」『早稲田政治経済学雑誌』268号, 1981.10
 121. 「日本の役割とは何か」『公明』245号, 1982.6
 122. 「南北問題と平和の戦略」『公明』258号, 1983.7
 123. 「カリブ海の小国グレナダ訪問記—“香料の島”から脱却できるか」『エコノミスト』61(32), 1983.8.9
 124. 「軍拡競争と第三世界—日本の責務を考える」『世界』441号, 1982.10
 125. 「従属理論の新展開—サミール・アミンにおける低開発国の経済自立論」『早稲田政治経済学雑誌』270~272号, 1983.10
 126. 「深圳・厦門経済特別区に行く—香港返還・台湾統一への地ならし」『エコノミスト』61(42), 1983.10.11
 127. 「新国際経済秩序の問題点」『経済セミナー』346号, 1983.11
 128. 「最近の世界政治経済について」『協同組合経営研究月報』362号, 1983.11
 129. 「南南協力と中国」『早稲田政治経済学』275号, 1983.12
 130. 「グレナダ報道と真実」『世界』458号, 1984.1
 131. 「米国の『裏庭』意識に振り回される—カトリック, 中道勢力の動きがカギ(中米・カリブ海)」『世界週報』65(1), 時事通信社, 1984.1.3
 132. 「北京南南シンポジウムの意味するもの」『アジア経済旬報』(1286), 社団法人中国研究所, 1984.2.11
 133. 「地域秩序と平和」『早稲田政治経済学雑誌』276・277号, 1984.3
 134. 「国際交流の拠点としての大学」『早稲田フォーラム』No.44, Winter 1984
 135. 「転換期の中国民族政策」『世界』466号, 1984.9
 136. 「平和と開発—『広島・長崎・沖縄』の意味」『平和研究』9号, 1984.11
 137. 「第三世界から見た累積債務問題—途上国の発展路線を展望する」『エコノミスト』62(53), 1984.12.18
 138. 「日常化した『天災』—第3世界における開発と貧困」『世界』471号, 1985.2
 139. 「世界危機と多国籍企業」『早稲田政治経済学雑誌』280・281号, 1985.3
 140. 「南北問題の現状と食糧・資源・環境問題」『資料平和経済』284号, 平和経済計画会議, 1985.4
 141. 「東アジアの緊張緩和へ動く—学術交流活動の発展と東北辺境部訪問」『公明』285号, 1985.10

142. 「いま求められる地球的協力の理念（フィリピン現地調査）」『朝日ジャーナル』27(43), 1985. 10. 25
143. 「NICs 神話の崩壊」『経済セミナー』373号, 1986. 2
144. 「フィリピン '85—日本の『援助』を問う」『世界』485号, 1986. 2
145. 「フィリピン '85—近代化と開発の現実」『世界』486号, 1986. 3
146. 「フランス第3共和制の植民地政策—ルロワ=ポーリユーとジュール・フェリィー」『社会経済史学』52(2), 社会経済史学会, 1986. 6. 25
147. 「太平洋協力構想と朝鮮統一」『早稲田政治経済学雑誌』287号, 1986. 7
148. 「女性と平和」『女性と文明』聖心女子大学キリスト教文化研究所編, 春秋社, 1986. 7
149. 「国連の開発援助機能」『早稲田政治経済学雑誌』288号, 1986. 10
150. 「なぜフィリピンは貧しくて飢えるのか」ピースボート99編『フィリピンはもっと変わる』第3書館, 1986. 10
151. 「日本における第三世界研究 総論」『公明』299号, 1986. 12
152. 「隣国に対する無知」『世界』496号, 1987. 1
153. 「ジョン・ロビンソンの低開発論」『早稲田政治経済学雑誌』289号, 1987. 1
154. 「西原亀三とその時代—日本対外膨張思想の成立（ビブリオグラフィ）」『早稲田政治経済学雑誌』290号, 1987. 4
155. 「開発援助—国際化のもう1つの視点」久和ひとみと, 『経済セミナー』389号, 1987. 6
156. 「いま地域で平和教育を—『神奈川県平和教育懇話会の協議のまとめ』によせて〔含資料〕（教育と平和）」『教育』37(7), 1987. 7
157. 「環日本海経済協力を提唱する—芽生えてきた日・中・韓・北朝鮮の交流」『エコノミスト』65(40), 1987. 9. 22
158. 「経済協力のいくつかの方向」『月刊社会党』385号, 1988. 2
159. 「債務問題と日本」『早稲田政治経済学雑誌』294号, 1988. 4
160. 「国家と経済開発」（深瀬忠一編『北海道で平和を考える』北海道大学図書刊行会）1988. 11
161. 「内発的発展論の起源と今日的意識」『内発的発展論』東京大学出版会, 1989
162. 「NIES, 新NIES 発展の条件」『国際経済』40号, 財団法人学会誌刊行センター, 1989
163. 「NIES 発表の条件を探る—新しい国際経済秩序をどう形成する」『エコノミスト』67(2), 1989. 1. 17
164. 「労働力開国よりも人権開国を—出稼ぎ労働者送り出し国の実情とODA」『月刊社会党』398号, 1989. 2
165. 「アジア太平洋諸国の台頭とヨーロッパ—強まるNIES, 日本への依存度」『エコノミスト』67(11), 1989. 3. 20
166. 「フィリピン, ネグロス島の経済社会と国際協力」『早稲田政治経済学雑誌』297・298号, 1989.

167. 「ネグロス島における自立と国際協力の展望」『早稲田政治経済学雑誌』299号, 1989.6
168. 「開発援助と自立—ODA を考える」『世界』533号, 1989.10
169. 「21世紀の人口問題」『早稲田政治経済学雑誌』300号, 1989.10
170. 「生命系の経済学と内発的発展論」『人間・科学・宗教』龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編, 龍谷大学, 1990.3
171. 「世界システム論からレギュレーション理論へ」『経済セミナー』423号, 1990.4
172. 「日本企業の多国籍化—アメリカ, ヨーロッパと比較した対外直接投資の理論的検討」『早稲田政治経済学雑誌』301・302号, 1990.4
173. 「現代世界経済の中でのイスラーム経済圏」『早稲田政治経済学雑誌』303号, 1990.7
174. 「開放政策を模索する北朝鮮—北の『閉鎖』は日本の閉鎖体制の裏返し」『エコノミスト』68(28), 1990.7.3
175. 「地球環境と食糧問題」『早稲田政治経済学雑誌』304・305号, 1991.1
176. 「開発協力における地方自治体の役割」『平和研究』17号, 1992
177. 「日本企業のアジア太平洋投資」『早稲田政治経済学雑誌』307・308号, 1992.1
178. 「経済発展理論の展開—シュンペーターからペルーへ」『経済理論と計量分析』, 大石・福岡編, 早大出版部, 1992.3
179. 「東アジアの局地経済圏」『ネットワーク』住友生命保険相互会社, 1992.9
180. 「環境保全は人権から」『中国新聞』1992.6.1
181. 「北側の消費・寄生的生活を改めよ」『毎日新聞』1992.6.7
182. 「世界の人口問題に日本が貢献する道」『世界週報』時事通信社, 1992.6.8
183. 「17年目の韓国」『公明新聞』1992.6.18
184. 「東アジア地域協力が動き出した」『世界週報』時事通信社, 1992.6.23
185. 「『持続可能な開発』実現の条件」『早稲田政治経済学雑誌』311号, 1992.7
186. 「アジア太平洋時代と中国」秀村欣二監修『文明の転換と東アジア』藤原書店, 1992.9
187. 「仏国民投票後の欧州統一の行方」『世界週報』時事通信社, 1992.10.13
188. 「グローバリズムと地域経済圏」『ジェットロセンサー』日本貿易振興会, 1992.12
189. 「開発に脅された先住民族の権利要求」『世界週報』時事通信社, 1992.12.1
190. 「アジア太平洋経済と新国際分業」『早稲田政治経済学雑誌』313号, 1993.1
191. 「日本のNGOを成長させるには」『世界週報』時事通信社, 1993.2.25
192. 「開発協力に占めるNGOの役割」『早稲田政治経済学雑誌』314号, 1993.4
193. 「NGOと政府の関係に関する提言(『NGOと開発』分科会)」高柳彰夫と, 『国際開発研究』2(1), 国際開発学会, 1993.5
194. 「時代の潮流つかみ社会主義の実体化を」『月刊社会党』455号, 1993.6
195. 「発展途上国における人口転換」『早稲田政治経済学雑誌』315号, 1993.7
196. 「経済発展と民主主義」『エコノミスト』1993.7.27

197. 「日本の近・現代史と共生の時代—アジアと日本」『教育』43(8), 教育科学研究会, 国土社, 1993. 8
198. 「農業と自由貿易」『早稲田政治経済学雑誌』316号, 1993. 10
199. 「地球文明と農業の自己革新」『窓』107号, 1993. 10
200. 「『緑の革命』は途上国を救ったか」『経済セミナー』467号, 1993. 12
201. 「世界経済と日本」『日本経済新聞』14面, 1993. 12. 27
202. 「東北アジア協力の新段階: 黄渤海経済圏の現状と展望」『環日本海論叢』4, 新潟大学, 1994. 3. 28
203. 「環太平洋文明圏としての日・米・中関係と21世紀文明」『公明』388号, 1994. 4
204. 「環日本海協力構想の現状と展開—冷戦後の東北アジア協力」『早稲田政治経済学雑誌』318号, 1994. 4
205. 「中国の改革・開放体制と環黄渤海経済圏形成の意義」『早稲田政治経済学雑誌』319号, 1994. 7
206. 「人権意識強め, 歴史凝視を一『名誉ある日本』への道とは」『公明』394号, 1994. 10
207. 「アジア経済 環境・社会問題が『成長の死角』に」『エコノミスト』72(54), 1994. 12. 20
208. 「公明党結党30年に寄せて」『公明』396号, 1994. 12
209. 「アジア太平洋経済における地域圏の形成」『成城大学経済研究』127号, 1995. 1
210. 「内地雑居論から対外膨張へ—帝国主義期日本人の対外意識形成考」『早稲田政治経済学雑誌』321号, 1995. 1
211. 「ラスキンの社会経済思想」『ラスキン文庫だより』1995. 1
212. 「世界経済と社会サミット」『討論集会シリーズ』124号, 尾崎行雄記念財団, 1995. 3
213. 「国連社会開発サミットの意義—貧困, 失業, 分裂の社会問題解決には, 市民参加こそが求められる」『世界』607号, 1995. 4
214. 「社会開発—理論と政策」『早稲田政治経済学雑誌』322号, 1995. 4
215. 「豊かさと貧しさ—ガンディーとマザー・テレサのしごとを考える」『早稲田政治経済学雑誌』323号, 1995. 7
216. 「世界の貧困—国連貧困解消十年の課題」『早稲田政治経済学雑誌』325号, 1996. 1
217. 「地球上から『貧困』をなくすために—国連『国際貧困撲滅の年』にわれわれは何をすべきか」『潮』443号, 1996. 2
218. 「21世紀に向かう世界経済の潮流」『早稲田政治経済学雑誌』326号, 1996. 4
219. 「エラスムス計画の意義—EUの高等教育協力・交流政策」『早稲田フォーラム』No. 72, 1996. 5
220. 「資源と持続可能な発展」『国際経済』47号, 1996. 9
221. 「ポスト冷戦時代の世界新秩序と沖縄」『早稲田政治経済学雑誌』329号, 1997. 1
222. 「ボーダーレス時代の日本型経営」『品質管理』48(2), 日本科学技術連盟, 1997. 2

223. 「“21 世紀の世界文化” 考」『東京新聞』夕刊 1997. 2. 5
224. 「資源と持続可能な発展」『早稲田政治経済学雑誌』330 号, 1997. 4
225. 「ポスト冷戦時代の世界新秩序と沖縄」佐久川・鎌田編『冷戦時代の日本と沖縄』谷沢書房, 1997. 6
226. 「(今月の提言) アジア太平洋の時代—決め手は人材育成」『今月の焦点』11(12), 三和総合研究所, 1997. 12
227. 「アジアにおける“持続可能な発展”」『アジアの環境問題』, 環境経済・政策学会編, 東洋経済新報社, 1998
228. 「社会発展論の展開」『アジア・太平洋人権レビュー』通号 1998, アジア太平洋人権情報センター編, 現代人文社, 1998. 6
229. 「アジアにおける『持続可能な発展』の展望」『早稲田政治経済学雑誌』333 号, 1998. 1
230. 「人間開発の理論的系譜—A・センの倫理的経済学の検討」『早稲田政治経済学雑誌』334 号, 1998. 3
231. 「男性とフェミニズムを語る (8) もうひとつのグローバル化と女性の役割—市民社会や女性の力を強めることで民主主義社会のグローバル化を」松井やよりと, 『女たちの 21 世紀』14 号, 『女たちの 21 世紀』編集委員会編, アジア女性資料センター, 1998. 4
232. 「アジアの二重の危機—経済危機と環境危機: 『持続可能な発展』へ向けて」『早稲田政治経済学雑誌』335 号, 1998. 7
233. 「遺跡保護と砂漠化防止」『経済協力評価報告書』平成 10 年版, 外務省経済協力局, 1998. 8
234. 「人権と社会発展」『早稲田政治経済学雑誌』336 号, 1998. 10
235. 「貧困—グローバル化時代における取り組み」(『21 世紀への国際開発パラダイムシフト』国際開発高等教育機構) 1999. 3
236. 「21 世紀の途上国開発と ODA」『早稲田政治経済学雑誌』338 号, 1999. 4
237. 「経済のグローバル化と人権」『部落解放』456 号, 1999. 7
238. 「経済のグローバル化と人権」『早稲田政治経済学雑誌』339 号, 1999. 7
239. 「グローバル経済と内発的発展」『財政学研究』25 号, 財政学研究会, 1999. 10
240. 「仏教再生による草の根発展と平和—もう一つの開発 “めざすタイ開発僧の理論と実践”」『早稲田政治経済学雑誌』341 号, 2000. 1
241. 「日本 ODA と人間の安全保障」『アジア太平洋討究』(2), 2000. 3
242. 「経済協力」『ブリタニカ国際年鑑』2000 年版, 2000. 4
243. 「世界システムと女性—エンパワメントと NPO」『早稲田政治経済学雑誌』343 号, 2000. 7
244. 「構造学派と従属論—その歴史的意義」『早稲田政治経済学雑誌』344 号, 2000. 10
245. 「中国論壇 暴力の記憶・平和の文化」『中国新聞』5 面, 2000. 12. 30
246. 「タイ仏教からみた開発と発展」『アジアの内発的発展』藤原書店, 2001
247. 「地球に未来を—世界の人口と食料」『婦人之友』95(1), 婦人之友社, 2001. 1

248. 「グローバル化時代の環境と社会」『早稲田政治経済学雑誌』345・346号, 2001. 1
249. 「グローバリゼーションと社会開発」『開発教育』(43), 2001. 2
250. 「二十一世紀グローバル化世界と市民社会の役割」『討論集会シリーズ』尾崎行雄記念財団(150), 2001. 3
251. 「グローバル化時代の環境と社会—国際経済学の視点から」『環境情報科学』30(1), 環境情報科学研究所, 2001. 3. 30
252. 「平和フォーラム活動者会議の講演から 悪化するアジアの環境問題」『平和と民主主義』(636), フォーラム平和・人権・環境, 2001. 4
253. 「グローバル化と開発パラダイム」『早稲田政治経済学雑誌』346号, 2001. 4
254. 「経済学と幸福（二一世紀における政治学・経済学の新展開）」『早稲田政治経済学雑誌』350・351号, 2002. 7
255. 「南北問題」日本国際経済学会編『IT時代と国際経済システム』有斐閣, 2002. 12, 第12章
256. 「人間と開発—内発的発展による共生社会への展望」『早稲田政治経済学雑誌』352・353号, 2003. 1
257. 「グローバル化時代の都市と市民社会」『国際文化研修』特別号5, 全国市町村国際文化研修所, 2003. 3
258. 「今日のグローバリゼーション」『福音と社会』2003. 8
259. 「21世紀の市民社会（上）（下）市民社会の思想と運動から検証する」『軍縮問題資料』(280, 281), 2004. 2-3
260. 「内発的発展の理論と政策—中国内陸部への適用を考える」『早稲田政治経済学雑誌』354号, 2004. 2
261. 「もうひとつの社会経済システムを求めて—連帯経済の現代的意義」『生活経済政策』(87), 生活経済政策研究所, 503号, 2004. 4
262. 『『帝国以後』の国際ガバナンス【いかなる国連改革が必要か?】』『環』, 藤原書店, 18, 2004
263. 「ブータンに見る『国民総幸福』—理論と実際『アジア太平洋討究』(8), 2005. 10
264. 「ブータンに見る『国民総幸福』概念: 理論と実際」『国際文化会館会報』16(2), 国際文化会館, 41号, 2005. 12
265. 「世界の中で日本の経済援助政策はどうあるべきか」『環』21, 2005
266. 「グンデルを悼む」『環』22, 2005
267. 「グローバリゼーションと人間開発」九州国際大学『国際関係学論集』第I巻1, 2合併号, 2006. 1
268. 「東アジアの平和と公共空間」『PRIME』24号, 明治学院大学平和研究所, 2006. 10
269. 「連帯経済への展望」『信濃毎日新聞』2006. 11. 6
270. 「世界経済を展望する—グローバル化に拮抗する地域主義」政策研究フォーラム『改革者』2007. 1

中文論文

1. 西川潤, 李濱生, 凌星光「二一世紀的世界—中国与日本」『世界經濟』1984年2期
2. 「世界性危機与跨国公司」『跨国公司与中国的開放政策』南開大学出版社, 1990.7
3. 「新中国的成就与当今面臨的挑戰」『了望』1990年40期
4. 「内発式発展の理論与政策」『寧夏社会科学』寧夏社会科学院, 2004.5

英仏文論文

1. “The Resource Constraints: A Problem of the Japanese Economy” *Waseda Economic Papers*, Graduate School of Economics, Waseda University, vol. 16, 1977
2. “Japan’s Option: International Order or Regional Order?” *Waseda Economic Papers*, vol. 17, 1978
3. “Another Development for Japan” *Waseda Economic Papers*, vol. 18, 1979
4. “The New International Economic Order and Endogenous Development” *Waseda Economic Papers*, vol. 19, 1980
5. “Japanese Overseas Investment and Developing Countries” *Waseda Economic Papers*, vol. 20, 1981
6. “Regional Cooperation in the Pacific Area (I)” *Waseda Economic Papers*, vol. 22, 1983
7. “Regional Cooperation in the Pacific Area (II)” *Waseda Economic Papers*, vol. 23, 1984
8. “Japan’s Expansionism and the Role of People’s Movements” *Waseda Journal of Asian Studies*, vol. 6, 1984
9. “World Crisis and Transnational Cooperation” *Waseda Economic Papers*, Vol. 24, 1985
10. “Militarization, Economic Growth and Human Rights—The Case of Japan” G. Fischer (dir.), *Armement—Droits de l’ Homme—Désarmement, Faculté de Droit*, Paris V, 1985
11. “Towards Intensified Functional Cooperation in the Asia-Pacific Region” *Waseda Economic Papers*, vol. 25, 1986
12. “The Challenge of Asia-Pacific Cooperation” *Bulletin*, Association of Development Research and Training Institute of Asia and the Pacific, 1987
13. “ASEAN Region. Economic Performance and the Role of Regional Cooperation in the 1980’s” *Waseda Economic Papers*, vol. 26, 1987
14. “What is Owned the Debt-ridden Third World?” *Japan Quarterly*, 1988. 1. 3
15. “ASEAN Countries: Economic Performance and Tasks Ahead” In S. Ichimura(ed.), *Challenge of Asian Developing Countries. Issues and Analyses*, APO, 1988
16. “Les investissements extérieurs directs—Approches théoriques et multinationalization des firmes japonaises” *Waseda Economic Papers*, vol. 27, 1988

17. "Overseas Support and Self-Reliance on Negros Islands" *Peace Studies Newsletter*, Peace Studies Association of Japan, 1989
18. "Japan's Economic Cooperation: New Visions Wanted" *Japan Quarterly*, vol. XXXVI, no. 4, 12, 1989.10
19. "Southeast Asia and Japan—Perspective of the 1990s—" *Waseda Economic Papers*, No.28, 1989
20. "Japan, the Asia-Pacific Region and Europe: perspectives for the 1990s" *Waseda Economic Papers*, vol. 29, 1990
21. "South-East Asia and Japan: Perspectives for the 1990s" *ASEAN—Japan Relations*, Padjadjaran University, Bandung, 1990
22. "The Up-Grading of the Japanese Industrial Structure and Overseas Investment" *Waseda Economic Papers*, vol. 30, 1991
23. "Deciphering Japan Inc." *Japan Quarterly*, 1991. 4–6
24. "Self-Reliance and External Support: The Case of Negros" *Self-Reliance and International Cooperation. The Case of Negros*, Congress of People's Development Workers, Bacolod City, 1991
25. "The Tri-polarization of the world Economy and Asian Economic Development" *Waseda Economic Papers*, vol. 31, 1992
26. "L'économie d'Asie-Pacifique et la nouvelle division internationale du travail" *Mondes en Développement*, Institut des Sciences Mathématiques et Economiques Appliquées, tome 20, nos. 79/80, 1992
27. "The North Must Help Pay" *Japan Quarterly*, 3/4 1992. Aut/Win
28. "Japan Needs to play 'Networker' Role" *Japan Times*, 1993. 1. 1
29. "L'expansion du secteur des services et le tourisme au Japon" *Les loisirs au Japon (éd. par Ch. Condominas)*, L' Harmattan, 1993. 12
30. "Gender Issues in ODA and NGO Projects on Development Cooperation in Japan" *Waseda Economic Papers*, vol. 33, 1994
31. "Asian Economic Development and Local Economic Zones" *Regional Economic Strategies in East Asia. A Comparative Perspective*, Ed. by F. Gipouloux, Maison Franco-Japonaise, 1994
32. "Le Modèle de développemnet au Japon. Examen d'une interaction économique et sociale" *Economie Appliquée*, t. XLVIII, n. 4, ISMEA, 1995
33. "Regional Economic Zones in Asia and Their Implication on International Economic Order" *Waseda Economic Papers*, vol. 34, 1995
34. "Region should expand students exchanges" *The Nikkei Weekly*, May 27, 1996

35. “Economic system is at transition point” *The Nikkei Weekly*, Aug. 26, 1996
36. “Japan has chance to reform, reshape U.N.” *The Nikkei Weekly*, November 18, 1996
37. “Asia-Europe summit a chance for change” *The Nikkei Weekly*, December 29, 1996
38. “Adapting Japan’s economy to the world order” *Asahi Evening News*, January 3, 1997
39. “Why foreign students bypass Japan’s universities” *Asahi Evening News*, April 15, 1997
40. “ASEAN countries facing new path” *The Nikkei Weekly*, August 11, 1997
41. “Hazes a clear sign of need for action” *The Nikkei Weekly*, October 27, 1997
42. “The Theoretical Framework of Social Economy/Economie Sociale” 『国際公共経済研究』7号, 1997. 11
43. “International Exchange of Local Communities in the Post Deregulation Age—The Case of Japan—”, *Waseda Economic Papers*, vol. 36, 1997
44. “La possibilité d’un développement durable en Asie” *Perspectives asiatiques*, 6–7, 1998
45. “Flock of troubles grounds Asia’s highfliers” *The Nikkei Weekly*, January 19, 1998
46. “La possibilite du développement durable” *Waseda Economic Papers*, vol. 37, 1998
47. “Breaking ground for grass-roots growth” *The Nikkei Weekly*, March 30, 1998
48. “Asia’s crises reflect changing of guard” *The Nikkei Weekly*, June 8, 1998
49. “Le régionalisme économique dans les années 90, Le régionalisme d’aujourd’hui et la théorie de l’intégration économique” *Economic et Societe. H. S.*, No. 34, ISMEA, 1998. 10
50. “Nation has to break chain of uneasiness” *The Nikkei Weekly*, October 12, 1998
51. “Human rights come far, must go further” *The Nikkei Weekly*, December 14, 1998
52. “EU evolving into ‘Europe of regions’” *The Nikkei Weekly*, May 31, 1999
53. “Development aid targets ‘human security’” *The Nikkei Weekly*, August 23, 1999
54. “L’économie d’Asie-Pacifique: Perspective au début du XXIe Siecle” *Economies et Sociétés. H. S.*, No. 36, ISMEA, 1999. 11–12
55. “The Reform of the State-led Development System in Asian Countries”, *Waseda Economic Papers*, vol. 41, 2002
56. “How to Overcome Regional Gaps and Unequal Development?—The Perspective of the Endogenous Development Theory” 『アジア太平洋研究』第6号, 2004. 6

書評目録

1. 「赤羽裕 “低開発経済論序説”」『社会経済史学』37(6) 社会経済史学会 1972. 30
2. 「金芝河 “不帰”」『週刊朝日』1976. 2.
3. 「アンソニー・ Sampson “セブン・シスターズ—不死身の国際石油資本”」『北海道新聞』1976. 2. 17
4. 「野口雄一郎 “日本の経済ナショナリズム”」『週刊朝日』1976. 2. 20

5. 「住谷一彦 “河上肇の思想”」『週刊朝日』1976. 2.27
6. 「フォーラム「平和的生存権」〈法学セミナー〉」『週刊朝日』1976. 3. 5
7. 「芝生瑞和 “アンゴラ解放戦争”」『週刊朝日』1976. 3. 19
8. 「マーク・セルデン “延安革命”」『週刊朝日』1976. 4. 16
9. 「G・ルクレール “人類学と植民地主義”」『週刊朝日』1976. 4. 23
10. 「松下圭一/宮崎義一 “『市民的共和』の可能性”」『週刊朝日』1976. 4. 30
11. 「葉山滉 “新しい社会主義への挑戦”，“自主管理と社会主義”」『週刊朝日』1976. 5. 7
12. 「菊地昌典 “試練にたつ社会主義”」『週刊朝日』1976. 5. 28
13. 「酒井傳六 “スエズ運河”」『週刊朝日』1976. 5. 28
14. 「上海七一人民公社編集・執筆グループ “上海七一人民公社史”」『週刊朝日』1976. 6. 11
15. 「鹿野政直 “大正デモクラシー”」『週刊朝日』1976. 6. 18
16. 「林英夫 “絶望的近代の民衆像”」『週刊朝日』1976. 7. 23
17. 「涂照彦 “日本帝国主義下の台湾”」『週刊朝日』1976
18. 「大野力/影山喜一/作田啓一他 “われわれにとって企業とは何か上・下”」1976
19. 「ホセ・リサール “ノリ・メ・タンヘレ”，岩崎玄 “反逆・暴力・革命”」『週刊朝日』1976
20. 「上野英信 “出ニッポン記”」『週刊ポスト』1976. 5
21. 「玉野井芳郎/清成忠男/中村尚司共編 “地域主義”」『朝日新聞』1978. 5. 1
22. 「稲垣尚友 “山羊と芋酎”」『朝日新聞』1978. 5. 1
23. 「中村敏雄 “スポーツナショナリズム”」『朝日新聞』1978. 5. 29
24. 「ノリ・ハドル “希望との旅—アメリカはそう変わったか”」『朝日新聞』1978. 6
25. 「船橋洋一 “経済安全保障論—地球経済時代のパワー・エコノミックス”」『朝日新聞』1978. 6
26. 「玉野井芳郎 “エコノミーとエコロジー—広義の経済学への道”，永安幸正 “現代経済文明の生態学—自然・経済・思想”」『朝日新聞』1978. 6
27. 「岸本重陳 “『中流』の幻想”」『朝日新聞』1978. 6. 26
28. 「E・ウィリアムズ “コロンブスからカストロまで I, II—カリブ海域史 1492-1969”」『朝日新聞』1978. 7
29. 「阿部秀雄 “弱者を捨てる—アメリカ型福祉観への問い”」『朝日新聞』1978. 7
30. 「都留重人 “日本経済の奇跡は終わった”」『朝日新聞』1978. 8
31. 「A・G・フランク “世界資本主義とラテンアメリカ”」1978. 8. 28
32. 「山下惣一 “いま，村は大ゆれ。”」『朝日新聞』1978. 9
33. 「守田志郎 “文化の転回”，玉置哲 “むら社会と現代”」『朝日新聞』1978. 9
34. 「V・S・ナイポール “インド—傷ついた文明”」『朝日新聞』1978. 10. 15
35. 「金芝河 “苦行”」『朝日新聞』1978. 11. 15
36. 「宮崎義一/篠原一，平田清明 “転換期の思想”」『北海道新聞』1978. 12. 12
37. 「宮崎義一/篠原一，平田清明 “転換期の思想”」『朝日新聞』1978. 12. 16

38. 「新谷行 “松浦武四郎とアイヌ”」『朝日新聞』 1978. 12. 17
39. 「黒岩俊郎/玉置正美 “産業考古学入門”」『朝日新聞』 1978
40. 「宮川中民 “エコロジー運動は何をめざすか”」『朝日新聞』 1979. 1
41. 「北沢洋子 “私のなかのアフリカ”」『朝日新聞』 1979. 2. 25
42. 「宮本憲一 “開発と自治の展望・沖縄”」『朝日新聞』 1979. 3
43. 「ロバート・グレーム “イラン石油王国の崩壊”」『朝日新聞』 1979. 4. 15
44. 「中村秀一郎/正村公宏 “経済体制変革のシナリオ”」『朝日新聞』 1979. 4. 16
45. 「斎藤優 “技術移転論”」『朝日新聞』 1979
46. 「戴国輝 “台湾と台湾人”」『朝日新聞』 1980. 1. 14
47. 「レオポルド・コール “居酒屋社会の経済学”」『朝日新聞』 1980. 2. 10
48. 「田尻宗昭 “公害摘発最前線”」『朝日新聞』 1980. 2. 27
49. 「J・K ガルブレイス “ある自由主義者の肖像”」『朝日新聞』 1980. 3. 9
50. 「ルーホッター・ホメイニ “わが闘争宣言”」『朝日新聞』 1980. 4. 13
51. 「平沢豊 “日本の漁業・世界の漁業”」『朝日新聞』 1980. 4. 20
52. 「スーザン・ジョージ “なぜ世界の半分が飢えるのか”」『朝日新聞』 1980. 5. 4
53. 「黒沼ユリ子 “メキシコからの手紙”」『朝日新聞』 1980. 5
54. 「斎藤優 “技術移転論”」『季刊国際政治』 64 号, 日本国際政治学会 1980. 5
55. 「D. ガポール/U. コロンボ “浪費の時代を越えて”, E. L. ラズロー “地球社会への目標”」『朝日新聞』 1980. 6
56. 「川田侃 “国際関係の政治経済学”, 川田侃/三輪公忠 “現代国際関係論”」『朝日新聞』 1980. 6. 2
57. 「斎藤吉史 “インドの現代思潮”」『朝日新聞』 1980. 6. 16
58. 「綿貫礼子 “生命系の危機”」『朝日新聞』 1980. 7. 15
59. 「ミルトン・フリードマン/ローズ・フリードマン “選択の自由”」『朝日新聞』 1980. 7. 17
60. 「林信彰 “コメは証言する”」『朝日新聞』 1980. 8. 1
61. 「内海愛子/村井吉敬 “赤道下の朝鮮人叛乱”」『朝日新聞』 1980. 8. 4
62. 「松本直治 “原発死”」『朝日新聞』 1980. 8. 7
63. 「西部邁 “蟹気楼の中へ”」『朝日新聞』 1980. 8. 17
64. 「森詠 “石油帝国の陰謀”」『朝日新聞』 1980. 8. 18
65. 「パウロ・フレイレ “被抑圧者の教育学”」『朝日新聞』 1980. 9. 9
66. 「大城立裕 “華々しき宴のあとに”」『朝日新聞』 1980. 9. 16
67. 「エイモリー・ロビンズ “ソフト・エネルギー・パス”」『朝日新聞』 1980. 9. 16
68. 「矢野暢 “日本の南洋史観”」『日経新聞』 1980. 9. 30
69. 「盛田嘉徳/岡本良一/森杉夫 “ある被差別部落の歴史”, 西門民江 “峠の道”」『朝日新聞』 1980. 10. 7

70. 「緒方貞子 “国連からの視点”」『朝日新聞』1980.10.13
71. 「J・ニューフィールド, P・A ダブルル “ニューヨークが死ぬ時”」『朝日新聞』1980.10.21
72. 「アルビン・トフラー “第三の波”」『朝日新聞』1980.10.27
73. 「ルース・ハリソン “アニマル・マシーン”」『朝日新聞』1980.11.8
74. 「松井やより “人民の沈黙”」『朝日新聞』1980.11.11
75. 「馬場伸也 “アイデンティティの国際政治学”」『朝日新聞』1980.11.26
76. 「アミルカル・カブラル “アフリカ革命と文化”」『朝日新聞』1980.11.29
77. 「K・ポランニー “人間の経済 I, II”」『朝日新聞』1980.12.1
78. 「石原保徳 “インディアスの発見”」『朝日新聞』1980.12.15
79. 「正村公宏 “私の現代教育論”」『朝日新聞』1980
80. 「小田実 “歴史の転換のなかで”」『朝日新聞』1980
81. 「P・スウィージー/H・マグドフ “アメリカ資本主義の動態”」『朝日新聞』1980
82. 「小島晋治 “アジアからみた近代日本”」『朝日新聞』1980
83. 「松下幸之助/ルイス・ランドボルグ “日・米経営者の発想”」『朝日新聞』1980
84. 「ユネスコ「マクブライド委員会」報告 “多くの声, 一つの世界”」『朝日新聞』1980
85. 「植村忠博著『地球共同体の経済政策 - 絶対的貧困と BHN 開発戦略, 国際社会保障』『平和研究』11号, 1986.11
86. 「大野智也 “障害者はいま”」『朝日新聞』1988.9
87. 「井上真 “戦争と鍼灸”」『朝日新聞』1988.9
88. 「川原一之 “浄土むら土呂久”」『朝日新聞』1988.10
89. 「載国輝 “台湾”」『朝日新聞』1988.11
90. 「山内一男 “現代中国の経済政策”」「中国経済体制改革研究所 “中国の経済改革”」『朝日新聞』1988.12
91. 「花崎皋平 “静かな大地”」『朝日新聞』1989.1
92. 「島田晴雄 “ヒューマンウェアの経済学”」「吉原英樹他 “日本企業のグローバル経営”」『朝日新聞』1989.2
93. 「渡辺利夫 “西太平洋の時代”」『東京新聞』1989.3
94. 「土肥恒之 “「死せる魂」の社会史”」『朝日新聞』1989.3
95. 「江崎泰子, 森口秀志 “「在日」外国人”」『朝日新聞』1989.3
96. 「ラーオ・カムホーム, 星野龍夫訳 “タイ人たち”」トヨタ財団「刊行物紹介」(9) 1989.3
97. 「凌星光 “中国経済の離陸”」『朝日新聞』1989.4
98. 「加納弘勝 “中東イスラム世界の社会学”」『朝日新聞』1989.5
99. 「猪口邦子 “戦争と平和”」『朝日新聞』1989.6
100. 「ボワイエ “レギュラシオン理論”」「アグリエッタ “基軸通貨の終焉”」『朝日新聞』1989.7
101. 「宮本憲一 “環境経済学”」『朝日新聞』1989.7

102. 「原田正純 “水俣が映す世界”」『朝日新聞』1989. 7
103. 「外国人労働者をめぐる本から」『朝日新聞』1989. 8
104. 「安達生恒 “むらの戦後史”」『朝日新聞』1989. 8
105. 「クーリー “人間復興のテクノロジー”」『朝日新聞』1989. 9
106. 「G. R Feiwel 編 “J. R. ロビンソンと現代経済理論” “不完全競争と雇用の経済学”」『学燈』vol. 86, No. 10, 1989. 10
107. 「高校時代に読んでおきたいベストブック」『駿台アドバイス』1989. 10
108. 「中村尚司 “豊かなアジア, 貧しい日本”」『朝日新聞』1989. 10
109. 「サリバン・フォス “二つの朝鮮一つの未来”」『朝日新聞』1989. 10
110. 「佐藤幸男 “開発の構造”」「近藤正臣 “開発と自立の経済学”」『朝日新聞』1989. 11
111. 「安元稔ほか “歴史における自然”」『朝日新聞』1989. 11
112. 「ヨーロッパ統合をになう経済理論」『新刊案内』大村書店, 1989. 11
113. 「高昇孝 “現代朝鮮経済入門”」『朝鮮新報』1989. 12
114. 「レーダー “図説 死刑物語”」『朝日新聞』1989. 12
115. 「中村秀一『産業と倫理—アソシアシオンの想像力』『エコノミスト』1989. 12
116. 「丸山恵也 “日本的経営”」「熊沢誠 “日本的経営の明暗”」『朝日新聞』1989. 12
117. 「鈴木裕子・近藤和子編 “女・天皇制・戦争”」『朝日新聞』1990. 1
118. 「伊東光晴 “技術革命時代の日本”」『朝日新聞』1990. 1
119. 「吉岡忍 “日本人ごっこ”」『朝日新聞』1990. 2
120. 「デニス・T・ヤストモ, 渡辺明夫監訳 “戦略援助と日本外交”, 「鷲見一夫 “ODA 援助の現実”」『朝日ジャーナル』1990. 2
121. 「井野瀬久美恵 “大英帝国はミュージックホールから”」『朝日新聞』1990. 2
122. 「ODA 関連の本から」『朝日新聞』1990. 3
123. “Human Development Report 1990”『OUP ブックニュース』オックスフォード大学出版局, 1990. 7
124. 「岩崎峻介編 “NGO の挑戦” 上下」共同通信社系各紙, 1990. 12
125. 「本間浩 “難民問題とは何か”」『公明新聞』1990. 12
126. 「鶴見和子・川田侃 “内発的発展論”」『毎日新聞』1990. 12. 10
127. 「平和なオルタナティブ世界の形成— “玉野井芳郎著作品集” 全 4 巻」『国際学研究』(8), 明治学院大学国際学部, 1991. 3
128. 「21 世紀を読む—参考文献」『調研究室報』, 朝日新聞社調査研究室, 1991. 3
129. 「沢田昭夫, 門脇厚司 “日本人の国際化”」「グレゴリー・クラーク “誤解される日本人”」『朝日新聞』1991. 4. 19
130. 「石川滋 “開発経済学の基本問題”」『日本経済研究センター会報』日本経済研究センター, 637, 638 号, 1991. 8. 1・15

131. 「ウォーラーステイン編 “ワールドエコノミー”」『東京新聞』1991. 8. 11
 132. “N. Kink, “The Growth of Working Class Reformism in Mid—Victorian England” 『ラスキン文庫たより』ラスキン文庫
 133. 「堀坂浩太郎他 “ラテンアメリカとの共存”」『エコノミスト』毎日新聞社, 1991. 12. 17
 134. 「本山美彦 “豊かな国・貧しい国”」『東京新聞』1992. 2. 9
 135. 「ビジネスはアジアに在り '94」『産経新聞』1994. 6. 20
 136. 「スーザン・ジョージ “債務ブーメラン”」『東京新聞』1996. 1. 21
 137. 「コーテン “NGO とボランティアの 21 世紀”」「フリードマン “市民・政府・NGO」『エコノミスト』1996. 2. 13
 138. 「八木沢克昌 “アジア・熱き希望の大地”」『月刊福祉』1996. 11
 139. 「森本堯 “消費税が 20% を越え, 1 ドルが 200 円となるこれだけの理由”」『早稲田学報』1996. 6
 140. 「ヨーロッパ統計年鑑 '95 を推す」『東洋書林リーフレット』1996
 141. 「S. ジョージ, F. サヴェリ “世界銀行は地球を救えるか”」『日本経済新聞』1997. 1. 26
 142. “La bulle foncière au Japon” Japan Foundation Newsletter, XXIV. 5, 1997. 1
 143. 「内橋克人 “共生の大地”『図書 (臨時増刊)』岩波書店, 1997
 144. 「谷口誠 “21 世紀の南北問題”」『世界経済評論』2001. 10
 145. 「新田俊三 “ヨーロッパ中央銀行論”」『日仏経済学会 BULLETIN』第 24 号, 2004. 2
- (本主要著作, 論文・書評目録は, 鈴木弥生, 大谷杏, 金燦錫, 山崎蘭, 森泉佳子の協力によって作成した.)